

一級河川球磨川水系川辺川ダム建設事業 に係る公聴会における公述

2025年9月5日（金）

「ダムによらない復旧・復興を求める人吉・球磨の会」 鎗水 正美

1. はじめに

私は、この人吉球磨の中学校において、38年間理科教師として、子どもたちに物事を科学的に見ることの大切さを教えてきました。

天災でも人災でも、物事には必ず原因・要因があり結果が生じること。同じ結果を招かないように、何故そうなったのかを分析し、科学的検証を行うことが大切だと教えてきました。

2020年7月の人吉豪雨水害においては、私自身山田川から200mほど西のところで、床上70cmの浸水により、半壊の被害判定を受けました。

また、わたしの最初の赴任地である球磨中学校の教え子も犠牲になりました。球磨川に流されて遠く八代海で発見されました。もう二度とこのような被害が起こらぬようにと思い、今この場に立っています。

わたしたちダムによらない復旧・復興を求める人吉・球磨の会は、今年に入り、人吉の3か所で、「2020年人吉豪雨水害の聞き取り」を行ってきました。全て大きな被害を受けてきた人たちです。

下原田町瓜生田地区では、球磨川にそそぐ馬氷川の水が「あっという間に押し寄せてきた」という発言がありました。ここにも内水氾濫の実態がありました。

また、下林町仮屋地区では、球磨川の水だけでなく、「万江川や福川の水が、三方からとぐろを巻いて襲ってきた」という話が出されました。これも内水氾濫の証拠の一つです。

さらに、最も被害が大きかった地区の一つの温泉町では、町内の半数の方々が参加され、その被害の大きさが報告されました。

その中で、

「避難している人へ、あんたの家の物置の上に人が乗っているばいと電話があった人や」

「もう何回も大きな水害にあっているが、市や県や国は、一回もかさ上げなどしてくれなかった。ここに住むなということでしょうか」という悲痛なお話もありました。

「水害がひどい温泉町には嫁に行くなと言われました。しかし、わたしたちはここに住み続けるしかないのです。」というお話しも聞くことができました。

先の水害に関して、わたしの家に来た泥水は、すべて山田川のものであり、たとえ川辺川にどんなダムがあろうとも防ぎきれるものではなかったと思います。

明らかに山田川にかかる染戸橋が、流木や泥流により「俄かダム」になり、間違いなく東側から城本町、駒井田町を襲いました。このことは、駒井田町の田中さんが、たくさんの避難者とともに3階の部屋から実際に見ています。これが先の水害における内水氾濫の真実です。

様々なデータをお持ちの国土交通省に置かれましては、山田川を始め、万江川、渡小川、神瀬川内川などの支流に関して、次の点を明らかにしてほしいと思います。

わたしはよく山田川の堤防をウォーキングしていますが、この5年間、染戸橋の上流にある堰から、鶴亀橋の間は、石一つ掘削されていません。鶴亀橋の上流には土砂がたまっています。草木も生い茂り、川幅はほんとに狭くなっています。堰の近くでは鯉が背中を出して泳いでいる始末です。このような状況の中で、質問したいと思います。

2. 質問

まず、①それぞれの支流における降雨量や、それぞれの上流の山林の状況、土砂や森が、どういう状況にあり、どうして大量に

流れ出してきたのか。この点をどのように検証・検分・検討されたのかを聞かせてください。

次に、

②①をふまえて、今後川辺川ダム以外の対策として、各支流に対し、山林の保護や遊水池の検討など、どのような対策を行っていく計画なのかをお聴きしたいと思います。

③最後になりましたが

水害から5年が経とうとしている中、今回の公聴会に応募し、発言を拒否された方がたくさんおられます。中には床上3mも浸水し、長く仮設住宅にに住まわれた方もいます。

いったい何故、どういう理由で発言が拒否されたのか、その理由を説明してください。

(国土交通省はこの事実を知っていないようだった。)

(議長が発言の内容が被っているなどで制限されたことを説明した。)

前回のダム建設に関しては、住民討論集会が行われ、相良総合体育館で数千人を集めて、とことん討論を行いました。当時の潮谷知事は、ダム賛成の人々が会場を出ようとしたときに、

「あなたたちは何のためにここに来たのですか、最後まで討論に参加してください」とマイクをとり発言されました。素晴らしいお言葉でした。ダムに賛成・反対の人々全員がすべて発言できるようにすることが大切だと思います。

どんなに内容が被っていても、一人ひとり内容が違います。ましては大変な被害にあった人の発言をぜひ尊重してほしいと思います。

最後に、ぜひすべての人の発言ができるように新たな日を設定してください。民主主義とは一人一人の意見や考えを大切にする事だと思います。全ての人に発言の機会が与えられますように要望し、私の発言を終わります。